

消費税増税をどう考えるか

一橋大学名誉教授 石 弘 光

- *世界的に市民権を得た消費税
- *「広く公平に負担」が特徴
- *導入へ挫折の繰り返し
- *絶好のチャンス逃がした小泉政権
- *三党合意と新たな局面
- *社会保障と税の一体改革
- *消費税の4割強が地方へ回る
- *消費税の逆進性と軽減税率
- *「インボイスなし」から生じる矛盾
- *最後に問われる国民の眼力



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

消費税増税が国会で可決されたので、おそらく8%、10%になっていくことになります。消費税の問題となればこれは石先生しかいないのではないかと、石さんもそろそろ俺はもういいよというお気持ちかもしれませんけれども、ここはぜひ石さんにやっていただかないかと思っております。

一橋大学時代から最後は政府税調の会長などなど、税制にかかわる学者として石さんの右に出る人はちょっと思いつきませんが、経済倶楽部では5年ほど前に「タックスざっくばらん」という題でお話しいただきました。今日は政局とも絡めて消費税の問題をじっくり伺いたいと思えます。

石さんは江戸っ子ですから、歯切れよく話されると思いますが、ぜひ最後のところで質疑に火花を散らしていただきたい。質問がなくてつまらないとおっしゃっていますから、ぜひそのようにお願いしたいと思います。それでは石さん、よろしくお願いたします。（拍手）

石 ご紹介いただきました石でございます。たしか経済倶楽部にお呼びいただいたのは2度目だと思います。今日は「消費税」などというたった一つの税目でこの講演会の演目にするのはいかがかと考えたのですが、しかし考えてみますと、この消費税というのは昔から常に問題であり続け、かつ現在も非常に問題を投げ掛けておりますし、今後ますますいろいろな意味で政治、経済、社会、日本のすべてに関して絡む